

## お知らせ

### 資料紹介

「食料問題研究会報告」について  
～今なぜ食料を考えるのか～  
私たちに何ができるのか～

生活協同組合市民生協コープさつぽろでは、系列の(株)コープ生活文化研究所に対し、食料問題について市民生協としての基本的な考え方と役割などについて調査・研究することを委託した。そのため、専門家による「食料問題研究会」を設置し、平成八年八月から平成九年八月の一カ年をかけて取り組み、その結果はコープさつぽろ理事会会長に報告された。

その内容は「生活文化研究所調査研究論集(第七集)」に掲載されるとともに抜刷りも作成され、生協の事業展開や会員(消費者)の学習活動、関係者などの参考に活用されている。

用されている。

この研究会の委員には、コープさつぽろの副会長でもある当研究所上田恒夫理事長が座長を務める他、富田義昭常務理事も委員の一人として参画している。また、「食と農」についてのアンケート」ではJA女性部をも対象に実施するなど農業者の側にとつても、興味深い結果であり、ここにアンケートの骨子のみを紹介したい。

なお関心のある方で「報告書」抜刷りの頒布を希望される場合は末尾に申込み方法などを掲載するので一読と活用を勧めたい。

### 「食と農」についてのアンケート

食料問題に関連する生活者の意識等を知るため、コープさつぽろの会員(消費者)およびJA女性部(生産者)を対象に「食と農」についてのアンケート」を実施し、食と農への関心度、食料需給、食料自給と輸入食料、食料の安全保障、食生活と食料、食料問題に関連する生協への期待、などの項目について意識状況を調査、消費者と生産者の比較など詳細に分析し

ている。

ほとんどの回答者が「高くても国産品を買って、日本農業を支援する必要はある」と考えている意識状況が示された。

また、生協に期待する役割の項は、「食の安全性のこだわり」や「産直や生産者との交流」、「情報提供」が上位を占め、多くの回答者が「私たちに何ができるか」について考えようとしている状況を窺うことができた。

しかし、JA女性部として「食と農」に関する基本的な認識が不足しているなどの結果も見受けられるので、今後の学習活動の強化を必要とするなどの重要な示唆が得られた。

### 頒布希望の場合の申込み

#### ①資料の体裁

「食料問題研究会報告」

抜刷り

A四版 五〇頁 簡易製本

(平成九年九月発行)

#### ②申込み先

(株)コープ生活文化研究所

〒〇六〇札幌市中央区北七条

西十八丁目

☎〇一一(六四一) 四四一七

FAX (六四一) 三四三三

#### ◎頒布価格

単価六〇〇円(送料・税込み)

\*JA組合員の学習用などのために相当部数必要な場合は、送料の割引があるのでご相談ください。



研究会・研修会等への

報告者・講師の派遣

(平成九年十一月)

十年二月)

○十勝における農業振興と道路

整備に関する懇談会・

話題提供

主催 アグリネットビジョン・

帯広開発建設部道路課

とき 平成9年11月5日

テーマ 「21世紀の食糧基地十勝

を支える交通基盤」

話題提供者 富田 義昭(当研究

所・常務理事)

○十勝北部地域農村活性化

検討会

主催 十勝北部地域広域農業開

発基本調査推進協議会

とき 平成9年12月3日

テーマ 「中山間地域における野

菜振興について」

講演者 富田 義昭(当研究所・

常務理事)

○地域農業技術センター

連絡会議研究交流会

主催 地域農業技術センター

連絡会議

とき 平成10年2月12日

テーマ 「北海道における野菜の

生産・流通の現状と将来

展望」

講演者 富田 義昭(当研究所・

常務理事)

## DATA FILE

### 関連事項 / DATA

東京大学

〒113 東京都文京区弥生1-1-1  
☎03(3812)2111

北海道大学

〒060 札幌市北区北9条西9丁目  
☎011(716)2111

ホクレン農業協同組合連合会

〒060-91 札幌市中央区北4条西1丁目  
☎011(231)2111

北海道立中央農業試験場

〒069-13 夕張郡長沼町東6線北15号  
☎01238(9)2001

北海道新聞社

〒060-91 札幌市中央区大通西3丁目6  
☎011(210)5600

北海道経済連合会

〒060 札幌市中央区北3条西4丁目  
☎011(221)6166

株式会社生活文化研究所

〒060-91 札幌市中央区北7条西18丁目  
☎011(641)4417

室蘭工業大学

〒050 室蘭市水元町27番1号  
☎0143(47)3133

南幌町役場

〒069-02 空知郡南幌町米町3丁目2-1  
☎011(378)2121

JAなんぼろ

〒069-0237 空知郡南幌町米町1丁目4-7  
☎011(378)2221

JA訓子府

〒099-1433 常呂郡訓子府町仲町25  
☎0157(47)2151

北海道農業会議

〒060 札幌市中央区北1条西7丁目  
☎011(281)6761

## 編集後記

◇農業情勢厳しい中で、「ゆとり農業」  
がもてはやされている。

先日、酪農大規模経営の先端事例調  
査で別海地区の農家を何軒かおじゃま  
しました。その中で、上春の坂脇組合長の  
経営が印象に残った。

ほぼ一〇年ぶりにおじゃますると、  
経営は息子夫婦に委譲して牛舎も以前  
のクラシックと言っただけ、ほろ牛舎は  
姿を消し、明るくて近代的な牛舎で若  
夫婦が最新の設備を駆使して生き生き  
と働いていた。

一〇〇頭以上の搾乳と牛の管理で、  
労働ビークとなる牧草収穫は「コントラ  
クターで乗り切っている。

ところで「年間労働時間は？」との  
質問に「そうだなー三、五〇〇時間ぐ  
らいになるかなー」。

レストルームには大きなレーザーカ  
ラオケもあって、たしかに夫婦水入ら  
ずだが、一日二四時間の半分を牛舎で  
過ごす事になる。

「これを楽しめないようでは牛飼いは  
つとまらないよ」と一人とも屈託無い  
他産業を見ると中小企業の人達が汗  
水流して土日もなく働く一方、大企業  
のサラリーマンほど、週休二日制を享  
受しているように見える。もっと優雅  
なのはノルマさえない公務員やそれに  
準じる人達か。最近、集中的に「ユニ  
ス番組をにぎわしている階層に特化し  
ていると思いませんか。

農水省畜産局長の中須勇雄氏は昨年  
一月中旬札幌で行われた、北海道の  
酪農を守る町村長会議主催の酪農講演  
会で講演し、「北海道酪農の規模拡大は  
この辺でいいのではないか」牧草主体  
の本来型酪農に戻すこと、機械等の

コスト軽減に努め、経営の内部充実に  
努める事が当面の基本的課題だとして  
いる。これは今流行の「ゆとり農業」  
に準じた考えと言える。

今年、酪農研の研究発表で黒沢賞を  
取った阿部雅夫さんの経営理念は規模  
拡大による雇用の導入、経営者の労働  
軽減を結びつけた点がユニークである。  
北海道酪農平均指標では七〇頭搾乳  
で五、六〇〇時間程度の労働時間とな  
っている。これを夫婦一人一人で休み無  
くなすとしたら確かにゆとりのあるう  
はずがない、しかし経営規模を押さ  
えて四〇〇五〇頭規模で二人で経営する

「ゆとり農業」と、一〇〇頭搾乳七、  
〇〇〇時間を雇用を入れて三人で経営  
すると、どちらが時間的なゆとりが  
出来るのだろうか。  
誰か研究対象にしませんか。